

この瞬間に集中する 中にこそ人生の意味がある



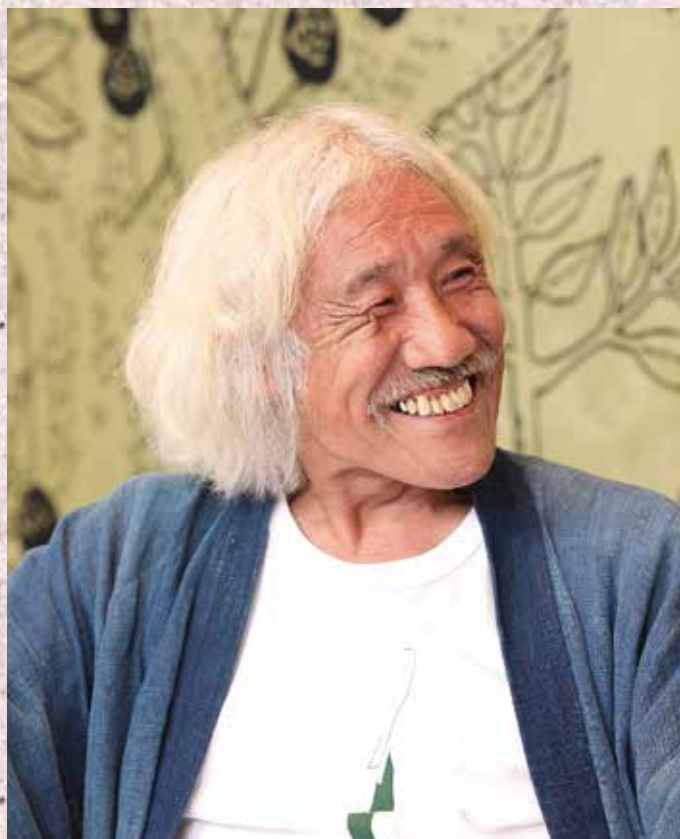
中野 善壽氏

東方文化支援財団 代表理事

1944年生まれ。伊勢丹を経て、婦人服専門店鈴屋へ転社、代表取締役専務就任。香港で仕事をし、1970年代、パリやニューヨークでも仕事をし、旅行が好きで世界100カ国以上を旅したことがある。退社後、1991年台湾に渡り、中国力覇集団百貨店部門代表就任、2002年遠東集団董事長特別顧問及び亜東百貨COO就任。2011年寺田倉庫代表取締役社長兼CEOとなり、拠点である天王洲アイルをアートのかで独特の雰囲気、文化を感じる街に変身させ、2019年退社。2015年より中華民国(台湾)文化部国際政策諮問委員(顧問)就任し現任。2018年モンブラン国際文化賞を受賞後、東方文化支援財団設立、代表理事現任。地域や国境を超えた信頼感の醸成をはかり東方文化を極めたいというビジョンを持ち活動。2021年8月ACAO SPA & RESORT代表取締役会長兼CEOに就任し現任。著書に「ぜんぶ、すてれば」(ディスカヴァー・トゥエンティワン社)、「孤独からはじめよう」(ダイヤモンド社)がある。

東京から疎開先に向かう列車の中で産声を上げ
どうにもならない経験から生まれた「どうでもいいや」の価値観
自暴自棄ではない戦闘的な精神で道理を嫌う
経営者としてはプロだが経済人向きではない
自分を助ける為、ある種の逃避が「冬眠」現象となつて

自分の仕事は決めること
 ブツダの精神が理解できる地域で支援活動を始め
 地域再生アートが根付く街づくりを熱海で実践
 アートには乱暴な人を優しく、魅力に気づいていない街を美しく変える力がある
 死ぬ間際、最後の10秒で良かったと思えるかが人生のすべて…



小林 康生氏

越後 門出和紙 代表

1954年 新潟県柏崎市高柳生まれ。1982年 地域おこし「水曜会」設立、都市との交流運動やかやぶき民家の修復、じょんのび村構想に関わる。
 1985年 朝日酒造平澤亨氏より依頼を受け、清酒「久保田」の誕生に伴う和紙のラベルを委任され今日に続く。イスラエルのイズハル・ニューマンが1年間の研修に来日。以来交流が続き、その後海外からの研修生を受け入れる。
 1986年 工房の総称を「越後門出和紙」と命名、代表となる。1991年 門出かやぶきの里「交流の宿」運営に携わり今日に至る。1998年 建築家隈研吾氏と知己を得、高柳町「陽の楽家」の内装・外装全面和紙貼り、サントリー美術館「ひかり壁（2008年）サンパウロ・ジャパンハウス（2016年）フランス・パリ（2017年）メッシュ和紙の現地制作に関わる。集大成として「大地の学校」構想に着手。

「どうにもならないこと」を 体感した少年時代

小林 今日はお忙しいところありがとうございます。隈研吾さんからバトンを渡された時、東方文化支援財団で代表理事を務めておられる中野善壽さんしかない、と思いました。初めてお会いしたのが昨年10月1日で、今日が2度目、申し訳ない気持ちもあったのですが、快く引き受けて下さって本当に感謝しています。どうぞ宜しくお願いします。

中野 いえいえ、こちらこそ宜しくお願いします。

小林 中野さんは、東方文化支援財団で東方地域文化の下支えをするような方々、根っこの部分で頑張っている方々を毎年表彰しておられます。昨年「アジアン・カルチャー・アワード2021」に私ごときを選出して下さり、わざわざ賞金と感謝状をお持ち下さったのです。

中野 私共からの感謝の気持ちなので、昨年に限らず受賞者の方全員にお持ちしています。

小林 どんな方なのかなあとすごく楽



中野善壽氏

しみにしていました。中野さんは私と真逆の所も沢山ありますが、根っこの部分がよく似ています。その獨創性というか、こだわらない生き方は、多分幼少時代に何か影響を受けたのではないかと思うのですが。

中野 獨創性があるかどうかは分かりませんが、比較的自由に生きてきました。隈さんとの付き合いもお互い邪魔にならない、そういう感じですね。小林さんに会って、そのライフスタイルや考え方に魅力を感じました。小林さんはこだわって、私は全くこだわっていないのです。

小林 モノへのこだわりという面では

真逆ですね。

中野 でもこれは大事なことです。買うとか手に入れることと、捨てる瞬間の気持ち、その時の感覚が大事です。私は捨てる方が好きで結果的に何も無いのです。「ジャケットがないから買に行かない」という話では、ジャケットを着用しなくてはならない場所には行かない。形だけで同類に見られるのは嫌だし、皆に合わせる必要もないから。実は戦時中に東京から岩手県の疎開先へ向かう途中の八戸市の鮫町というところで私は生まれました。疎開先は岩手の久慈という所で、父方の祖母の下で何年か過ごし、その後東

京の母方の祖母の所で育ったのですが、12歳の時にその祖父が亡くなって、青森県の弘前市の母方の祖母の遠い親戚の所に行きました。

小林 12歳で、東京から弘前に？

中野 とにかく雪がすごく、全く言葉が通じない外国みたいな所に引っ越して、驚きながら生活をしていて13歳の7月6日に、世話をしてくれる予定だった多くの親戚が空襲で亡くなって……親戚がいないう所に戻っても仕方がないので、高校を卒業する18歳まで弘前で過ごし、大学進学の為東京に戻ってきました。そのような流れの中で、どうにもならない局面を何度も経験し、後先を考えても仕方がないという感じは多分その頃に育ったような気がします。明日のことを考えてもどうにもならないし、祖父母がしてくれた過去の話をしても何の意味もないと。

小林 度胸がついた、ということですか。

中野 と言うよりどうでもよくなつて、弘前で過ごした中高の6年間は精神的には不良だったかもしれませぬ。地元では一番の進学校で成績はそれなりだったのですが、あまり優秀な生徒ではなかったと思います。

小林 スポーツは何かやっていましたか？

中野 野球をやっていました。でも、停学も結構あって大事な試合にいないことが多くて、そんな中からいろいろ価値観が生まれ育って、特に「どうでもいいや！」という価値観はその時に生まれたと思いますね。

小林 だからと言って、自暴自棄になつた訳でもないですね。

中野 別に死ぬ気はなかつたし戦闘的な精神もあつたので、自暴自棄ではないです。力任せにやってくる人間に対しては徹底的に抵抗しました。道理を言われるのは嫌いです。そもそも世の中には道理などありませんから。社会的地位や経済力に恵まれた人間が、権力や道理を通して、それがその時々正義や常識になる、そういう社会だから道理をぶつけてくる人間には抵抗してしまいます。小学校の頃は完璧に監督のサインを無視して殴られてそれっさり、あまり経済人向きではありません。

小林 でも、経済人でいらつしやる。

中野 経営者としてプロではありませんが、精神的には向いているのかいないのか自分でもよく分かりません。あま

り嫌なことをしないで済んでいるという意味では、自己満足はしています。

小林 結果としては成功されているわけですが、その時々で失敗もあれば成功もある、ということでしょうか。気力というのはどこからくるのですか？

中野 何かの力が目の前に見えた時ですね。それがないと全く気力が湧きません。

小林 戦う方ですか？私は対照的に子どもの頃はゆりかごみたいに通ごてきました。山や田んぼが、あるいは畑が遊び場で、父親が絶えず食べられる物を畑の端っこに用意してくれて、木登りをしたり何でも採って食べ

られる生活で、とてもやさしいいい子でした。だから中学生の頃は「康生はいい子」の代表みたいになって、自分

がやりたいことが出来なくなるような気がしたので、高校生になってから髭を伸ばしてね、とにかく自分は普通とは違うと表現した結果、いまだにそうなっています（笑）

中野 そういう意味では共通する所があります。私も何か違うことをしたいと思っていたので。

小林 中野さん程ではないですが、表に出さないけれど反抗心はありましたよ。

中野 小林さんの作品はすごく優しい

ので、熱海のホテル全室に照明を置かせていただいています。お客様からも結構問い合わせがありますよ。

小林 それは隈研吾さんに依頼を受けたメッシュ和紙の灯りです。金属物を紙で漉いて、それを灯りにすることで金属の硬い表情を柔らかく見せるという作品ですが、第一号の試作品をお買い上げ下さつてありがたいと思つています。

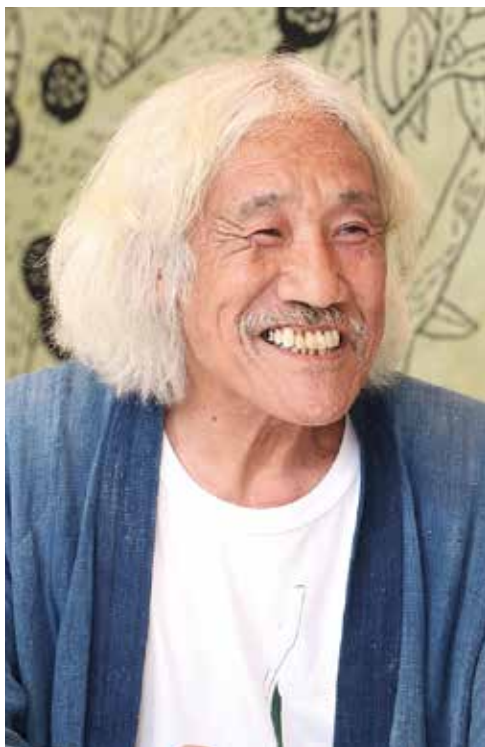
中野 東の海から入ってくる朝陽が売り物のホテルですから、そこに灯りが灯るとお客さんが「わあ！」つて言ってくれてそれが嬉しくてね。小林さんの性格が作品に出ている感じがします。

小林 中野さんはとても時間的余裕のある注文で助かりました。

中野 私の仕事は「決めること」です。クオリティを上げるには我々の次の段階にどれだけ時間をあげられるかが勝負で、判断はそれ程時間と関係ありません。

小林 私は決断するのにすごく時間がかかる方で、全く違いますね。羨ましいです。

中野 そういう意味では、止める時も簡単で「やめる」つもりがあるから、



小林康生氏

いつでも決断できるのです。夜中の12時頃に電話で「これとこれ、やりたいから資料作って」と頼んで、朝7時頃に「出来ましたよ」と言われても、出社するまでの間に気が変わることもよくあります。

小林 それじゃあスタッフの皆さんは大変ですね(笑)

台湾の百貨店を立て直し

寺田倉庫を改革するまで

小林 伊勢丹、そして鈴屋で活躍され、そして台湾が出てきますがどう繋がって、又その中でどんなことに気づかれたのでしょうか？

中野 5年間伊勢丹の子会社で商品に関連した仕事をしていましたから比較的的自由で、人事異動で香港に行った伊勢丹の本店に戻ったりしている内に、「誰の為の会社なのか」という疑問を持ちました。組織とはこういうものでいいのか、ベースは社員の為、働く人の為の会社であるべきで、次にお客様の為の会社であるべきだろう、と。総ての人の役に立とうとすると誰のお役にも立てなくなる。誰が決めているのかもよく分からなくなつて伊勢丹

から離れました。自分で決められるような小さな会社がいいな、と思いつて。

小林 それで、鈴屋に入られたのですか。

中野 当時は小さな会社で自由にでき、オーナーもいろいろと任せてくれて、フランスやニューヨークに会社を創ってブランドの開発をしたりしました。

小林 素晴らしい会社ですね。

中野 人を育てるという意味では非常にいい環境で、創業者の鈴木義雄氏は教育者として素晴らしい人でした。17〜18年程お世話になりましたが、期待されているという感覚がなくなつてきて……、辞表を書きました。

小林 辞表を書いて台湾にですか？

中野 鈴木義雄氏は業界でも活躍されていたし、私は組織の中である時期から実質ナンバー2でした。「中野が辞めた」となると噂話のネタにされる、いなくなるのが一番いいと思い、次にシンガポール行きの便に乗りました。

小林 行動が早いんですね。

中野 ただ日本から出ることが目的でした。シンガポールには特に目的もな

かったので、「だったら台湾でもいいかな、ビザを取ってここで降りよう」と……。あちこち飛び込みで仕事を探しました。

小林 素晴らしい行動力ですね。

中野 計画的に考えてやるのは行動力だと思いますが、これはいい加減ですからね。

小林 突発力かもしれないけれど動けるというのはすごい、妄想力でしょうか。

中野 いいことばかり勝手に考えて、すごく出来そうなことを言つてまわりました。

小林 ポジティブなのですね。

中野 そう、逆に暗いことを考えると落ち込んで精神を病んでしまうので。出来るだけ前向きにという生き方をしました。先日も血圧が80〜40、脈拍も40ぐらいでパタンと倒れて、5時間意識がなくなる「冬眠」をしたのですがもう4回目です。健康診断の結果としては全く問題なく、簡単に言うると自分を助ける為、ある種の逃避だということ。台湾人は結構明るい話が好きなので「とりあえずやらせてみようか」という感じで、向こうの企業で働くことになりました。台湾の中小

企業の経営者を教育する所で、付加価値をつけるということをテーマに週3回講義をしましたが、その中の経営者の方から声をかけて頂いたのが「力霸集団」という会社です。のちにオーナーの娘が始めた百貨店やホテルを手伝うよう声をかけてくれて、手伝うつもりが責任者になってしまいました(笑)

小林 何年ぐらいいらつしたつたのですか？

中野 9年弱です。当時の台湾としては珍しい業態で、百貨店とは言つても22歳の女性だけがターゲットの大型専門店でした。

小林 ずいぶんと焦点を絞つた特殊な百貨店ですね。

中野 何故、22歳の大学を出たばかりの女性をターゲットにしたかという、隣にある三越は3倍の面積があり、しかも日本のブランドですから信用力も全然違いました。三越と戦うには錐揉み戦法しかありませんでしたね。

小林 それで成功したのですか？

中野 結果的には、どうにもならなかった百貨店が力霸グループ全体を支えるまでになりました。これは勝手なことを言つていた私を、言葉も通じない中で皆が一所懸命にサポートしてく

れて実現した、皆の成功です。

小林 仲間と寺田倉庫の話をする、決まって中野さんの話になります。アートを事業に取り入れたのはどのような想いがあったのですか。

中野 寺田倉庫との縁は50年くらいになりますが、倉庫会社としては興味がなく、確か創業60周年のパーティーをランドプリンスホテル新高輪の飛天の間でやった時、違和感がありました。2代目のオーナーの寺田保信さんと仲がよかったです、パーティーの後一緒に食事して様子を訊いてみました。あまりうまくいっていないような雰囲気だったので以前から知っている社長に預金通帳のコピーを見せてと。そういう目線で見ると、何かやらな

いといけないことがある、と思ったのです。

小林 お財布の中身をちゃんと見よう、と。

中野 もうひとつの理由は、寺田保信さんは天王洲の運河を、昔彼が住んでいたロングアイランドの運河のようにして、レストランを造っていたのです。「どうしてこんなことやってるの？」と疑問に思ったので「自分がやる」と言って押しかけました。

小林 そう言って、「じゃあ、宜しく」となるのですか？

中野 特別やりたいわけでもないけれど、声をかけた時にはもう覚悟していたと思います。権限のない仕事はしたくないし意味がない。「相談しろ」と言われる仕事はやりたくないから。

小林 倉庫業の知識はあったのですか？

中野 全くの素人です。でも、物流倉庫なのに海からも高速道路からも遠くて、山手通りに面してはいるけど常に渋滞が多い、これでもいいのかとまず疑問を持ちました。更に倉庫の高さはあるけど各建物とも1フロアが500坪ぐらいで小さい。現代の物流のシステムは横に広がっているのだからと1フロア3000坪ぐらいはしないと効率が悪い、そういう目線で見ると欠点だけが目立つのです。そこで周辺を歩いてみたら、天王洲は運河の向こう側に真西で、クロスしている運河が南に伸びていて夕陽が当たってすごく綺麗で、風がちゃんと抜けている。こんな所は東京で他にないですよ。これは結構財産だ」と思いましたし、倉庫の建物は荷重がものすごくしっかりして、天井高も申し分なし。新たに埋め立てをして開発した場所ですから電気の動力も入っていて、都内でこれだけの場所は他にない。そこで何かに転換すれば生きるかもしれないと考えたのです。中途半端に駅から遠いのでこの環境なら「うるさい」と住民から敬遠されがちなイベントができるのでは、そして天井が高いのならアートにとつては「作品を見せる」という意味でとてもいい、そんなことに転用したらいいかも、と思いついたのが最初です。

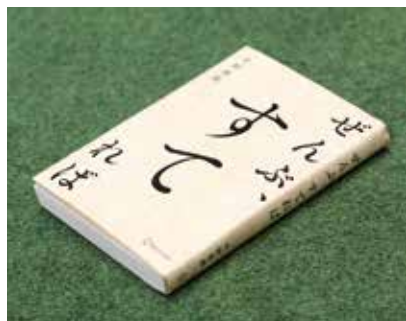
小林 立地と建物の構造から、メリットとデメリットを考えて新しい事業としてアートを思いついたのですね。

「買」と「捨てる」の
バランスを考える

小林 『ぜんぶ、すてれば』という面白い題名の本を出版されましたが、本当はご自分では出さじくなかったのに、スタッフの方が画策をして段取りをしてしまった、とか。スタッフの方が一枚上手でしたね(笑)

中野 「絶対売れる」とか言って超おだてられました(笑)

小林 でも、一般の常識とかなりかけ



中野氏の書籍『ぜんぶすてれば』

離れていてなかなか面白いですね。私とは随分違いますが、すごく参考になる部分があつて影響を受けました。良寛さんのように人と人との関係だけでなく、ありとあらゆるもの総てをこだわりからなくす、と。私はこだわりだらけで困りますが、一貫しているのが「瞬時瞬時を大事に生きなさい。その瞬間の中にこそ人の生の意味がある」という内容でとても興味深かったです。改めて中野さんの哲学をお話し頂きますか。

中野 発刊から3年、販売部数は大して伸びていません。いつも思うのは「今日がすべて」「この瞬間に集中する」ということです。あまり先の心配ばかりすると人間は消極的になります。過

去の想い出だけで生きるのは現実的ではありません。だからこそ両方共捨てないと感性が働かないと思います。人間はすべてを脳で感じて動けるかと言うと、脳ではない箇所を感じることもすごく大事だと思います。瞬間瞬間に集中していれば感性は生きるのです

が、考え過ぎると感性の部分は全部死んでしまいます。ただ感性も失敗する可能性はあるので、やめるということもセツトでやるのが大事なのではないでしょうか。私の生き方のコンセプトは比較的そういう感じですが、モノを買う瞬間は結構楽しいですが、捨てる時の方が情感が働くというか。人もそうですが、4回結婚しているけれど別れる時の方が味わい深い。

小林 別れる時の方が味わい深い……？

中野 味わい深いと言うと語弊がありますが感謝も含めて、「当たり前ではないことがいっぱいあった」と気づかせてくれる。そういう意味で捨てる時や別れる時というのはすごく人間らしくなれるような感じがしています。

小林 別れる時が新鮮だとすると結婚する時はどうなのですか？

中野 気合です。結構寂しがり屋な

ので誰かいてほしい。だけど慣れてくるといろいろ当たり前前に思えてきて、そう思い始めると瞬時にビュッと……。その時の感覚が好きです。

小林 武士道のようになっているのでしょうか。一瞬一瞬、「死」「生」の中の一部として捉えて、亡くなる10秒前にすごく幸せな感覚であることが理想だとおっしゃられていますね。波はいくつもあるだろうけれど、亡くなる時にそういう感覚であったならば、とても幸せだ、と。

中野 死ぬ間際の10秒間が大事で、そこまではすべて「途中」です。この最後の10秒間が自分の人生のすべてだと思います。「ああ、よかった。楽しかった」と思えば、すごくいい人生だと思いますね。

小林 生々しい、その時その時こそが人間の妙味というか人生だから。でも今の世の中があまりにもマニュアル化されたり、脳味噌の方が先行したりしているのが気に入らないという点では、非常に似ています。ただ、残すか残さないかという点では大きく違います。私はものすごく欲でしつかり残すことにこだわりますが、中野さんのようにスパーツとするのは怖いぐらい

に憧れるところもあります。**中野** でも、なくても困らないですよ。今、この東京で時計がなくても何も困りません。車は駐車場に……とか、ある方がかえって不便です。考えたら洋服もそれ程必要ないです。

小林 洋服だけはこだわってないですね。いつもこれしか着てないですから（笑）

中野 私は買うのは好きです。アパレルに勤めている友人がいるのですが、捨てることでその人と又会えるわけです。

小林 もつたいない、ではなくササッと捨てて切り替えていく……で、捨てるそのモノはどこに行くのですか？

中野 誰かにあげるのも失礼なので基本的にはゴミ箱です。自分が着たものを古着にして売ったり、買ったりする人もいますが、誰かが着ていたものには、元着ていた人の想いなどが付いているような感じがして……。

小林 現代は「環境にやさしく」とか言ってるようなものをゴミにしないので、再利用するという社会になっているのか、という風にしておられるのか興味がありました。

中野 ゴミ出しは得意です。今はひとり住いですが食べ終わった容器はちゃんと洗って分別もします。ゴミの出ない社会はものすごく大事で、循環した方がいいと思います。でもね、本当にゴミの出ない社会が幸せかどうか、フランスだと思えます。江戸時代、日本の江戸は世界に冠たるSDGsの都市を造った、それは素晴らしいと思います。でも、あれはゴミになるようなものを開発してないから出来たのです。人は、何かを知った瞬間から戻れるのだろうか、と。そう考えた時、出たゴミを再生するのではなく、分解して新たな製品にする技術を生み出すことが必要な時代がきているという気がします。その技術がいつまで経っても、使っていく方向に向けないと、多分継続性は出ないでしょう。

小林 確かに考えられますよね。私は子どもの頃からちゃんと腐って自然に戻るもので育ったので、ゴミを捨てることをあまり気にしません。でも、息子達の世代はちゃんと学習して分別して捨てています。逆に言えば、ゴミになる物が多すぎるのですよ。リサイクルがもっと上手くいくという仕掛け

はなく、自然に返るものを使っていくとかね。あるいは、今年の冬は「電気も不足しているから暖房の設定温度を20℃ぐらいにしよう」とテレビで放送していましたが、私が小学生の頃は「体育館の寒暖計が5℃より低くなったら石炭ストーブを焚いていい」と言われていました。そういう記憶からすると「20℃よりもっと低くてもいいのでは？」というのが率直な感想です。原子力がないと発電が間に合わないとかより、もっと節約をという議論がひとつもなくてちよつと納得できませんね。

中野 両方必要だと思います。先進国が取り残された人々とどういふ文化的な共有性を持つかということがすごく大事です。「人が人を殺す」のは差別や区別された時です。悔しいという感情が憎悪につながると考えると、人が人を殺すことで人の継続性はなくなってしまう。東方文化支援財団のアート活動は、何でもなし絵を1枚買ってあげることで、6か月間その国で家人を食べさせることができる。これはもう完璧にある種の格差です。そして、その絵に価値があるかどうかと言うと、あります。絵は「好き」と

いうことが大事だから。ピカソの絵はもう絵ではなく骨董品の価値です。アートというのは、多くの人が「好きだ」と思えてオンラインワンであることです。そういう価値観で見ると、山の中で暮らして教育も受けていない子達を描いた絵は、オンラインワンです。そして格差を縮めていって少しでも多くの人が貧困から遠ざかっていければ、おっしゃったように我々も我慢しないといけないのですが、必要以上に我慢すると、この人達もレベルが上がらなくなります。そのバランスだと思いますね。

小林 最初に貧しい人のアートに触れたのはいつ頃ですか？

中野 若い頃から世界中を飛び回って100か国以上旅行して35歳を過ぎたからは年間150泊位はホテル住まいでした。お金持ちとそうではない人の差がすごくありました。当時1ドル360円の時代、ものすごくひもじい思いもしました。その頃感じた想いをちゃんと思い出出すことで、多分多くのことを変えられる筈なのです。

小林 それが東方文化支援財団を設立していくきっかけになったのですね。
中野 全世界は見られませんが、少な

くともタイフーンとモンソンの来る地域の中で、なるべくブッダの精神が理解出来る所を対象にしました。一夫一妻ではなく、ブッダには7人か8人の奥さんがいたと聞いています。そして、神々を救っているのです。キリスト教は神々を救っていますか？自分の都合のいい論理が本当に自然なのか、と思った時に、我々の文化地域の中でゆるやかな連携を組んでいこう、そして我々に来ることは何かを考えたから、自分が持っているお金で子ども達の絵を買ってあげることなら出来ると思いました。

小林 最初はそこからだったのですかね。

中野 モンブラン国際文化賞を受賞して賞金を頂いたので、これで文化支援をはじめようと思いました。

小林 何に対しての賞でしたか？

中野 アートの力で独特の雰囲気、文化を感じる街に変身させたという活動に対する評価でした。世界の中でアートを使得って倉庫街をこれだけ劇的に変えた所は他にない、ということだったようです。アートには何かを変える力がある、乱暴な人間も優しくなれるし、魅力に気づいていない街も美しく

なるのです。

「孤独と」孤立 「民族と」国

小林 ところで、熱海のHOTEL ACAAOをリニューアルされましたね。アートに絡めた展開を進められているとのことですが……。

中野 一昨年、尊敬する阿闍梨から「勉強会のメンバーにACAAOの3代目がいるが、なかなか大変だ、何とかならないか」とお話がありました。ACAAOが持っている70万平米の土地を去年の3月、株主総会の直前に見



HOTEL ACAAO の客室

行きました。木と木の間隔のバランスがよく、熱海の山を越えて風が抜けていく、東から昇る朝陽と海もとても綺麗でした。1200年前からあるという曾我浅間神社が放置されボロボロの状態でしたが、その上には源頼朝が座つたら水が湧いたという言い伝えがある「頼朝の一杯水」という湧水もあり、ここには特別な意味があるのかも知れないと思つて引き受けることにしました。取締役を5か月務めました。中途半端に皆の意見を聞いても埒が明かないので、図々しいことですが「私に任せて」と、8月に代表取締役になりました。

小林 海の上に建っていますよね。

中野 1億円のシャンデリアや10本以上のブルーの大理石の柱など、とにかくすごく贅沢で……、私は最初に「売り上げが10億円しかない会社が110億円の借金をして、32億円の債務超過というのは社会に対しておかしい」と思いました。それで主たる銀行に「貸し込み過ぎだ」と言ったら、「昔は銀行が貸してあげたから事業が成り立ったのだ」との主張もありました。90年代からは流れが変わったのに、適性を貸し剥がしをしていないことにつ

いて反論しましたが、そこでケンカしても仕方ないので、「いずれにしてもこれからは私がやるから宜しくお願ひします」と挨拶をして戻ってきました。70万平米の土地を何とかして活かすことがポイントだと思えました。既に消失したマーケットにしがみついてこのようなホテルをやっている時代ではないと思えました。昔は団体旅行客がバスで乗り付けて1泊して帰る街でした。

小林 今はそんな人誰もいないですね。

中野 全てが団体旅行を前提にしたつくりになっていて無駄が多い、仕組みそのものが「昭和」なのです。このようなホテルを継続しようと思つたらまずまず会社が苦しくなるので、リゾート事業に転換しようと思ったのが、代表取締役になってからの第一歩です。350室の内100室だけを残し、これを活かす為の特別な策として、長く特徴のある廊下をギャラリーにすることにしました。そのために飾るアートを創ってもらいたいと思ひ、アーティストの方々に、宿泊施設としてはクロージした建物を活用することにしました。長期間住めば、夜は街に出て

熱海の人達とも親しくなつて熱海全体で盛り上がるのではと。ギャラリーには、月に1万人ぐらいが足を運んでくれるようになりまし、アートもシリーズを組んで掛け変えています。

小林 それはすごいですね。

中野 最近では、アーティスト達が夜中の2時、3時まで一緒に飲んでいて、我々が根回ししても「とんでもない」となるころ、自然に街造りが出来てきました。100人位のアーティストが熱海に住んでくれたら熱海は変わる、我々はリゾートを活かして、パトロンになるような人達に住んでもらう、そしてパトロンとアーティストが繋がる為には5000円〜8000円ぐらいの飲食店が必要になってきます。T. Y. ハーバーを運営しているタイソンスアンドカンパニーの社長と相談して合弁会社を設立しその辺の価格帯の飲食店を熱海に創る活動をしています。

小林 本当に街造りをされていらつしやる。

中野 東方文化支援財団の目的のひとつには「地域再生」もありますので、実例としてアートの根付いている街造りを紹介したいのです。その点では、

また使いたいと感じる小林さんの優しい照明もアートだと思います。

小林 A C A Oのあの場所で、うちの紙を使えそうなアーティストが来られたら紹介して下さい。紙の方で応援させて頂きます。

中野 その時は是非お願いします。

小林 ところで、中野さんは昨年『孤独からはじめよう』という本を出されました。「孤独」と「孤立」は違いますが、ただ、通常は孤独には寂しさがついてくると思いますが、どう考えておられますか？

中野 寂しいですよ。孤独と寂しさはセツトになっていきますが、孤独で寂しい感覚になると集中力が出ます。ほんわかした時には集中力がなく、妙にごまをすり始めたり、無理に仲良くしようと思つと、野生の虎や豹のような感性がなくなつてしまいます。だから孤独を愛し、寂しさと戦つて集中力を出す。そういう環境でないと思ひます。ない感性というのがあると思ひます。結婚も別れたあとはやっぱ寂しいですよ。もう、誰でもいいから一緒に住みたい(笑)

小林 「孤立」についてはどうですか？

中野 孤独を支えてくれる人がいない



対談を終えて

小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が
小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が
小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が

小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が
小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が
小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が

小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が
小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が
小林 逆に言うと、そう
中野 生まれきた時が

時は孤立ですが、私の場合は幸いにし
 て、まあ、「それは駄目」「あれは駄目」
 と言ってくれる方々が結構います。
小林 そうなるには人間関係、信頼関
 係が必要ですね。
中野 どうでしょう、仕事上でもあま
 り上下の感覚はないです。誰に対して
 も説教をしたことはありません。怒っ
 ても仕方がないから怒ったこともあり

ません。
小林 自分に怒ることもないですか。
中野 ええ、それもないですね。
小林 そこは似ています。私も怒るこ
 とはまずないし、「孤独」が必要とい
 う感覚もあります。中学生の頃から
 時々山に行つて空き缶で火を焚いてイ
 ンスタントラーメンを作つて食べて来
 るとか、お墓を整地した所に幽霊が出
 るというから「幽霊に会
 いに行く」とテントを持っ
 て泊まつて来るとか、一
 旦ゼロにしないと自分が
 落ち着かないですね。

いう人は孤立しないのでしょうか。中
 野さんが自由にいられるのは周り
 に理解者がおられるからですね。
中野 寺田倉庫も含めて、何人かのス
 タッフとずっと一緒にやってきました
 から。文句を言われて「ああ、そうか」
 と思うタイプです。
小林 道理を説かれるのは嫌ですよ
 ね？
中野 皆、道理ではなく「駄目！」と
 言うだけです(笑)

その子を日本に招いて……そんな風
 に人の交流によって繋がりができて
 いったら、すごくいいと思います。
 その時に、あまり場所にこだわらな
 いでほしいと……。
小林 中野さんがいいお手本ですね。
中野 やれば出来ますよ。考え過ぎた
 り守り過ぎたりすると出来ない。人は
 どうせいつか死にます。積極的に動い
 た方がむしろ危険が少ないのです。動
 かない方がずっと危険だと思います。
小林 日本はどうですか？
中野 安全だと思つていても実はもの
 すごく危険な所になるかもしれませ
 ん。国と国の関係というのはそういう
 ものです。瞬時にして全てをひっくり
 返す力を持つているのが政治、あるい
 は、ある種のプロパガンダの広報宣伝
 活動です。先進国のこの200年を振
 り返ると、彼らが我々を正しい方向に
 導いてくれたかどうか……。東方文化
 支援財団で「私のおすすすめ本」とい
 うのがありますので、若い人達には是非
 読んで頂きたいと思つています。
小林 今日は興味深いお話をありがと
 うございました。
中野 こちらこそありがとうございました。